

# 目 次

はじめに .....	2
<b>I 博物館概要</b>	
○設置目的 .....	3
○基本的性格と方針 .....	3
○沿革 .....	4
○施設・設備 .....	6
<b>II 平成3年度 組織・運営</b>	
○組 織 .....	8
○予 算 .....	9
○事業計画 .....	10
<b>III 平成2年度のあゆみ</b>	
○職 員 .....	12
○日誌抄 .....	12
○実施事業の概要 .....	14
○常設展	
1 刀剣コーナー .....	15
2 スタディーコーナー .....	15
○特別展	
1 輪中と治水 .....	16
2 白山の自然 .....	17
3 濃飛の仏像 .....	18
○資料紹介展	
1 貨幣 .....	19
2 人と石とのふれあい .....	20
○調査研究・資料収集活動	
自然部門 .....	21
人文部門 .....	23
○教育普及活動 .....	24
○図書資料寄贈者芳名一覧 .....	27
○利用状況 .....	30
○博物館関係団体 .....	31
<b>IV 利用案内</b> .....	32

## はじめに

岐阜県博物館は開館15年目を迎え平成2年7月に入館者数が130万人となりました。これは、あの急な坂道を登られたお一人お一人の博物館を愛される心の数であり、私どもは皆様のこの熱い想いに応えるべく、更に工夫を重ね、満ち足りた足どりで坂道を帰られるようにしなければならないと、肝に命ずる次第であります。

平成2年度には特筆すべき事柄が非常に多くありました。恐竜足跡化石の巨大なレプリカの作製展示を始めとし、青少年交友協会（東京）の寄付によるグリーンアドベンチャー標識の設置、岐阜県教職員互助組合からの多額の図書の寄贈、さらには県教育公務員弘済会からの生涯学習施設への寄贈第1号として岐阜名産の菊花石の巨大な自然石を入口に設置していただいたことなど、各方面から予想外のご支援を賜り特段の充実を図ることができました。

特別展は例年どおり三つ開催しました。春の「輪中と治水」はこの種の展示すべてを包括・集大成した意義あるものであり、夏の「白山の自然」は秘境白山の自然についての調査研究成果を発表し注目を集めるものでした。秋の特別展「濃飛の仏像」は当館として初めて文化庁の後援をいただき、県下一円にわたる国の重文・県の重文等の秘仏を多数展覧し、安田學石コレクションも披露しました。さいわい、近年まれにみる多数の来館者を迎え、うれしい悲鳴を上げた次第です。改めて、各寺院等の格別のご厚意に深謝申し上げます。なお、その折高齢者等への配慮として当館職員が車で坂道を送迎したことに對し、知事より親頼誇賞をいただいたことも、望外の喜び

でした。特別展の開場式に知事あるいは副知事のご出席を賜ったこと、初めて地元関市の小学生の参加を得たことなど、館の活性化の大きな要因となりました。また、友の会の共催により、待望の「文化講演会」第1回を文化の日に開催し、作家山田智彦氏を迎えて満場の聴衆を集め大成功に終わったことも特記しなければなりません。

さて今年度は、春に特別展「ふるさとの木の文化」、夏に「ふるさとの哺乳動物」、さらに秋には置県120年記念事業の一環として姉妹県盟約20周年記念展「鹿児島—その自然と歴史—」を企画し、県土再発見と活性化につながるよう、館の英知を傾けているところであります。また、岐阜県博物館協議会の貴重な答申を生かし、百年公園見直しの基本計画への具申を図ることも今年度の急務であります。高齢者人口の増大、労働時間の短縮、学校5日制の導入などにより、余暇の有効な利用が課題となり、博物館への期待もますます大きくなっています。この期待に応え、当館を広大な公園と一体となった日本一の博物館にするのが心からの願いであります。今後とも多くの方々のご意見をいただき、日々改善に努めてまいりたいと思います。

ここに、平成2年度の活動の記録をまとめ館報第14号といたしました。皆様のご指導とご協力に心から御礼申し上げますとともに、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成3年4月1日

岐阜県博物館長 篠田 幸男

# I 博物館概要

## 〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより、広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

## 〔基本的性格と方針〕

### 1. 基本的性格

岐阜県の人文（考古、歴史、民俗、美術工芸）自然（動物、植物、地学）等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究及びその活用を図る総合博物館とする。

学校教育・社会教育との密接な連携を図り、利用者が楽しく学習することができ、未来への研究心と創造性を開発させるような生涯学習機関とする。

県内の博物館および相当施設との連携をとり、資料の交換、提供を図り、本県の中央博物館としての役割を果たす内容と設備を有する施設とする。

資料の開発及び保存活用について、専門的な調査研究を推進する。

### 2. 基本の方針

#### (1) 資料収集

県内の考古・歴史・民俗・美術工芸・自然等に関する資料を収集する。

資料は、実物を中心とするが必要に応じて厳密な考証に基づく復元模型を含める。

寄贈、寄託、借用、購入等によって収集する。

#### (2) 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。

常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の二部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるように平易な展示を心がけ、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度のものとする。

展示の方針は、「(ア)生涯学習の場として、幅広い層に親しめる展示。(イ)単なる資料の羅列ではなくストーリー性のある展示。(ウ)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示。(エ)できる限り実物資料を展示するが、さらに図表、模型等多種類の資料も活用。(オ)視聴覚機器などを取り入れ、見る人に強く訴える設備。(カ)明確でわかりやすい解説」とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

#### ○人文総合展示（人文展示室1）

主題「郷土のあゆみ」——原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色をわかりやすく展示する。

#### ○自然総合展示（自然展示室1）

主題「郷土の自然とおいたち」——郷土の自然のあらましを生態的にわかりやすく展示する。

#### ○人文課題展示（人文展示室2）

主題「郷土の美術工芸」——特色ある郷土の美術工芸を部門別、時代別に展示する。

#### ○自然課題展示（自然展示室2）

主題「郷土のさまざまな自然」——特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

#### ○特別展示（特別展示室）

特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

#### (3) 事業運営

資料は、本県の歴史的発展の立場から価値のあるもの、また県内の自然にかかわる価値のあるものを保全し、収集保存する。

常設展示は、県民の学習に役立たせるため、展示構成の充実を図る。

特別展示はテーマの設定に配慮し、内容の充実を図る。

調査研究は、資料に関する専門的技術的な調査研究と資料の展示、保存に関する研究を行う。

教育普及は、各種の催しものを通じて県民の

理解と関心を深め、生涯学習の場づくりをする。  
併せて各種の啓発活動を推進する。

## 〔沿革〕

岐阜県博物館は、置県百年記念事業の1つとして、昭和51年5月5日にアカマツの自然林の中に開館した。

県内各地の豊かな資料をもとに、常設展示を自然展示室1・2、人文展示室1・2に分け、郷土岐阜県を紹介した総合博物館である。

なお、年に数回の特別展も開催している。

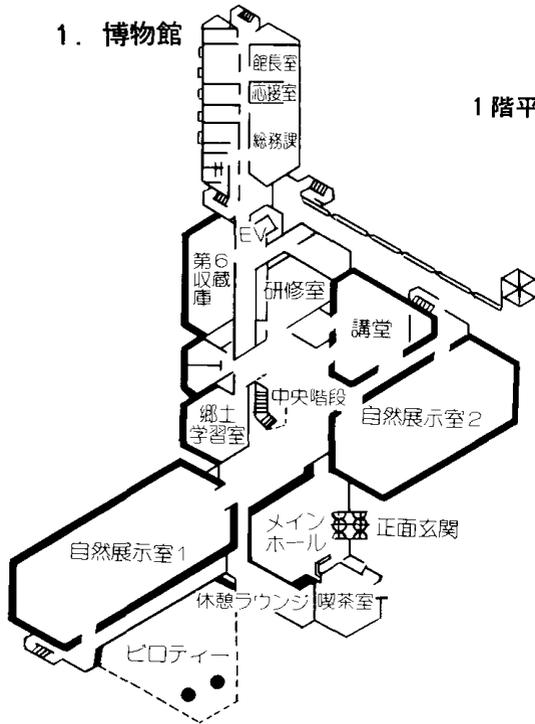
博物館建設準備段階からの沿革は次のとおりである。

昭和46年3月	岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定	7月	特別展「濃飛の甲冑」
4月	教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置	10月	特別展「世界のコガネムシ」
6～9月	博物館懇談会を設ける	昭和54年4月	特別展「能面と装束」 入館者40万人を突破
昭和47年4月	博物館開設準備室を設置 展示委員会をつくる	7月	特別展「濃飛の先史時代」
昭和48年8月	起工式挙行	10月	特別展「世界の貝」
昭和49年3月	展示実施計画できる	昭和55年4月	特別展「濃飛の文人」
10月	定礎式	5月	特別展「宝暦治水と薩摩藩」
昭和50年3月	展示工事着手	7月	入館者50万人を突破
7月	本館建築竣工	10月	特別展「化石の世界」
昭和51年1月	展示工事完了	昭和56年4月	特別展「蓼虫山人」
4月	岐阜県博物館条例公布 岐阜県博物館設置 展示資料等製作完了	5月	特別展「美濃の絵馬」
5月	開館記念式典挙行一般公開	7月	入館者60万人を突破
7月	巨匠三人展・スポーツ栄光展	10月	特別展「御岳山は生きている」
8月	皇太子同妃両殿下行啓	昭和57年4月	特別展「ふるさとの美濃古陶」
8月	特別展「ふるさとの文楽」	7月	特別展「高賀山の信仰」
10月	入館者10万人を突破	10月	入館者70万人突破
10月	入館料徴収開始	7月	特別展「ふるさとの植物」
11月	特別展「熊谷守一展」	10月	特別展「東洋の貨幣」
昭和52年5月	特別展「日本伝統工芸秀作展」	昭和58年4月	特別展「岐阜県の考古遺物」
7月	入館者20万人を突破	5月	入館者80万人を突破
11月	特別展「郷土の化石展」	7月	特別展「長良川」
昭和53年4月	入館者30万人を突破	10月	特別展「郷土の生んだ先覚者」
		昭和59年4月	特別展「濃飛の戦国武将」
		7月	特別展「ふるさとの昆虫」
		8月	入館者90万人を突破
		10月	学習ビデオスタジオコーナー設置
		昭和60年4月	特別展「濃飛の蘭学」
		7月	特別展「濃飛の縄文時代」
		10月	特別展「鉱物の世界」
		昭和61年4月	特別展「美濃の刀剣」
		7月	入館者100万人を突破
		12月	自然展示室2を改装
		昭和62年4月	特別展「徳山の四季とくらし」
		7月	特別展「奥飛騨の自然」
		9月	人文展示室1を改装
		10月	開館10周年記念式典を挙行 開館10周年記念展「ふるさとの祭り」
		昭和62年4月	特別展「濃飛の弥生時代」
			入館者110万人を突破

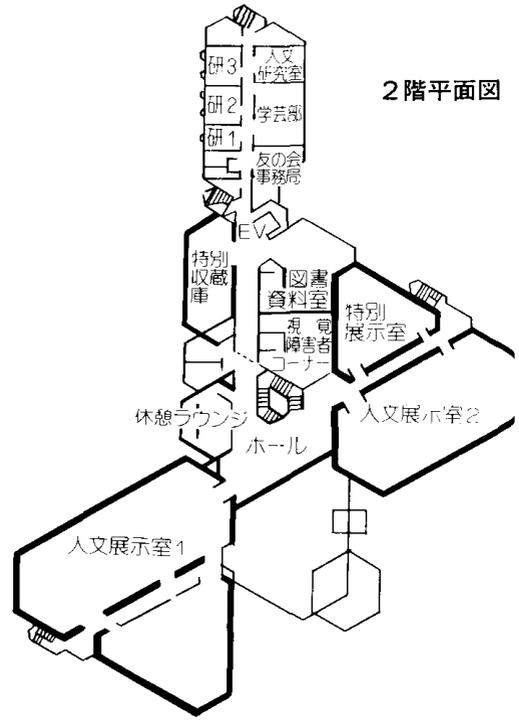
- 7月 特別展「外国から侵入した生きものたち」
- 10月 特別展「飛驒の匠」  
旧徳山村民家移築復元
- 昭和63年 1月 自然展示室1を改装
- 4月 特別展示室ショーケース改修  
特別展「ふるさとの湿原」
- 7月 中部未来博88記念展「中山道一美濃十六宿」
- 10月 特別展「中生代の化石」  
入館120万人突破
- 平成元年 4月 特別展「濃飛の古墳時代」
- 7月 特別展「ふるさとの野鳥」
- 8月 16日恐竜足跡化石白川村で発見
- 10月 特別展「移ろいゆく年中行事」
- 11月 日本生命財団より図書「岐阜県博物館総合案内」4,000冊の寄贈を受ける
- 平成2年 4月 特別展「輪中と治水」
- 7月 特別展「白山の自然」  
「恐竜足跡化石レプリカ」除幕式  
グリーンアドベンチャー標識設置（自然観察のこみちに）  
岐阜県博物館協議会に「新しい時代・県民ニーズに対応できる博物館の在り方について」諮問  
入館者130万人突破
- 10月 特別展「濃飛の仏像」
- 12月 岐阜県博物館協議会より中間答申
- 平成3年 3月 岐阜県博物館案内標識を設置

〔施設・設備〕

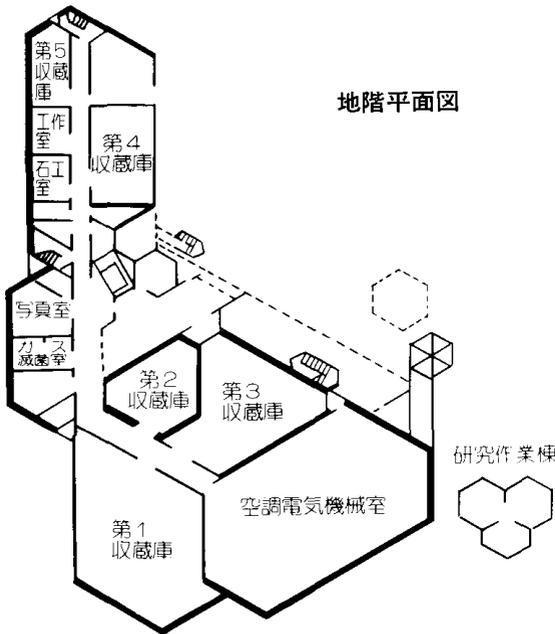
1. 博物館



1階平面図



2階平面図

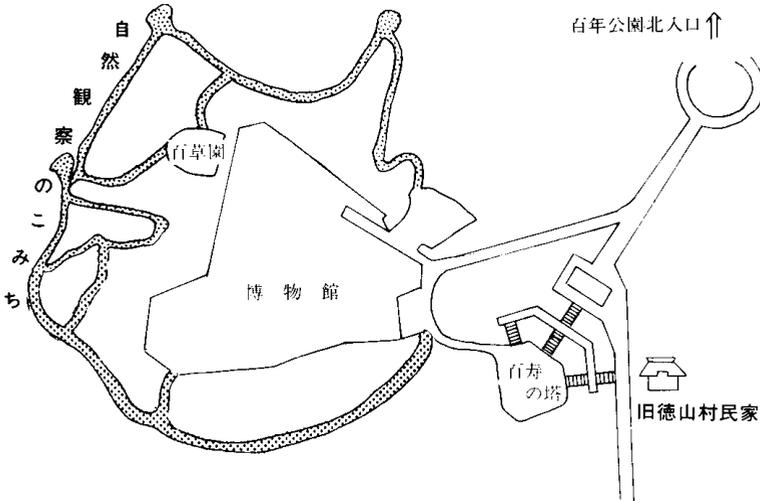


地階平面図

・主要室名及び面積

	室名	面積 (㎡)
1階	自然展示室1	583.8
	自然展示室2	478.8
	郷土学習室	95.4
	講堂	174.5
	研修室	93.2
	第6収蔵庫	142.8
2階	人文展示室1	942.2
	人文展示室2	478.8
	特別展示室	193.2
	図書資料室	191.7
	視覚障害者コーナー	98.7
	特別収蔵庫	142.8
地階	第1収蔵庫	314.1
	第2収蔵庫	126.0
	第3収蔵庫	192.0
	第4収蔵庫	99.4
	第5収蔵庫	55.0

## 2. 野外施設



### (1) 自然観察のこみち

館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中に生きた展示として、季節とともに移り変わる自然のすがたを観察できるようにしたこみちである。

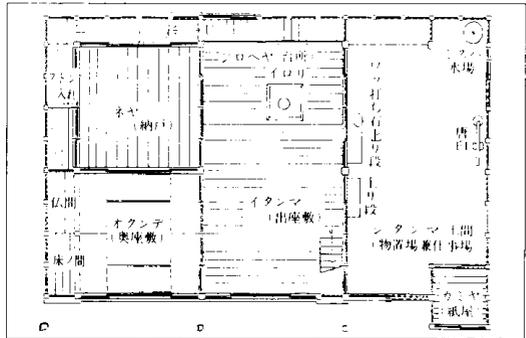
全長約830mで、途中見晴らし台が3ヶ所、万葉集の植物の案内、ツツジの群生地、百草園、マンサクの林などが設けられている。

なお、樹林の特徴などが学習できるようグリーンアドベンチャー常設コースとして、40本の樹木Q&Aパネルを設置している。

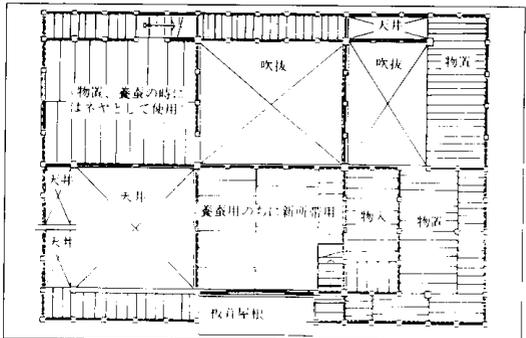
### (2) 旧徳山村民家

徳山ダム建設計画に伴い、徳山村は閉村となり藤橋村になったが、徳山の生活を後世に語り継ぐため、当時徳山村戸入在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了したもので、生活用具なども展示し無料開放している。

- ・様式 木造かやぶき2階建、南平入り
- ・主材 ブナ・トチ
- ・建面積 120.97㎡
- ・延面積 197.48㎡
- ・間取り 下図参照
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・屋根 入母屋式、切り落とし窓つき



▲1階間取り図



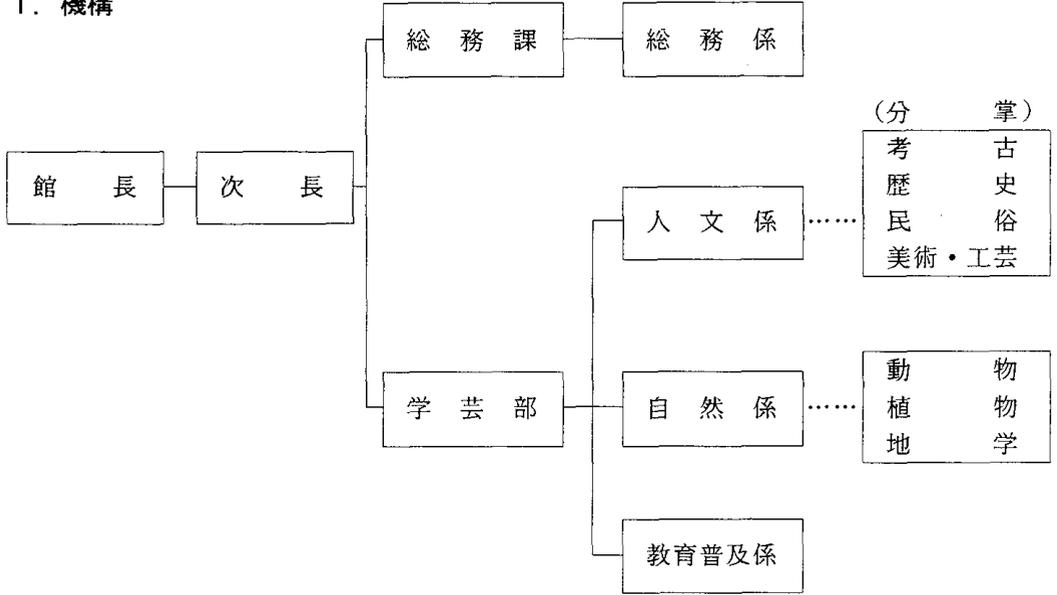
▲2階間取り図



## II 平成3年度 組織・運営

### 〔組織〕

#### 1. 機構



#### 2. 職員

平成3年4月1日現在

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	篠 田 幸 男	〔 学 芸 部 〕	
次 長 兼 総 務 課 長	尾 藤 俊 二	学 芸 部 長	清 水 昭 男
〔 総 務 課 〕		課 長 補 佐 ( 兼 ) 人 文 係 長	安 藤 和 男
総 務 係 長	武 田 正 雄	課 長 補 佐	尾 関 章 忠
主 任 事	市 原 聡 美	〃	川 瀬 善 守
〃	吉 田 明 美	〃	安 田 利 治
〃	鈴 木 猛 久	〃	今 津 利 治
〃	仁 科 純 子	課 長 補 佐 ( 兼 ) 自 然 係 長	國 光 正 宏
技 術 師 員	林 作 男	課 長 補 佐	遠 藤 俊 治
業 務 嘱 託 員	三 浦 佳 子	〃	中 島 恬 明
〃	土 田 みゆき	〃	後 藤 常 健
〃	島 戸 由 里 子	学 芸 嘱 託 員	説 田 健 一
〃	青 木 千 真 子	課 長 補 佐 ( 兼 ) 教 育 普 及 係 長	小 川 敏 高
〃	藤 井 敬 子	学 芸 主 事	大 平 高 司
〃	坂 井 真 紀	学 芸 嘱 託 員	近 藤 普 潤
		〃	山 口 登

### 3. 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、または意見を述べる機関として、岐

阜県博物館条例（昭和51年）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

◎…会長 ○…会長代理

平成3年3月31日現在（五十音順）

氏名	住所	現職
青木秀英	本巢郡真正町下真桑1148-1	岐阜県公民館連合会会長
石原太紀	関市大杉44-1	岐阜県高等学校長協会副会長
小瀬洋喜	岐阜市加納鉄砲町3-31	岐阜市立女子短期大学学長
熊田光久	関市山王通西7-10	岐阜県博物館友の会会長
○坂倉又吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊㈱取締役社長
篠田 薫	岐阜市粟野西1-10	かぐや第三幼稚園副園長
◎土屋 斉	大垣市荒尾町1077	㈱大垣共立銀行取締役会長
林 恒之	岐阜市青柳町1-5	岐阜県私立中学高等学校協会会長
溝脇昭人	岐阜市鷺山186-1	岐阜新聞社㈱論説委員
山田守貞	岐阜市長良2435-148	岐阜県小学校長会会長
和田吉弘	岐阜市長良白妙町1-5	岐阜大学教育学部教授
渡 辺 宏	岐阜市三田洞東5-8-6	岐阜県中学校長会会長

### 〔予算〕

当初予算額（単位：千円）

区分		年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度
歳入	博物館使用料		12,528	12,434	10,664	10,837
	諸収入		279	281	287	169
	合計		12,807	12,715	10,951	11,006
歳出	管理運営費	運営費	31,460	32,375	42,870	45,897
		施設管理費	80,125	78,350	78,209	83,508
		博物館協議会費	308	335	335	351
		合計	111,893	111,060	121,414	129,756
	事業費	実物資料等導入事業費	—	—	—	12,430
		常設展示費	21,479	6,410	9,560	6,591
		恐竜足跡化石関連調査費	—	—	6,100	7,000
		記念展開催費	—	—	—	7,800
		特別展示費	10,000	8,693	8,710	5,150
		資料収集管理費	2,064	1,321	1,119	1,497
		教育普及活動費	2,400	2,677	2,650	2,178
		ジュニア恐竜探検隊活動費	—	—	—	900
		調査研究費	600	611	611	677
		20周年見直し調査事業費	—	—	—	450
合計	36,543	19,712	28,750	44,673		
合計		148,436	130,772	150,164	174,429	

## 〔事業計画〕

### 1. 展示活動

事業名	期間	主な展示内容
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸について展示。刀剣コーナーは年4回展示替えを行う。
特別展・記念展 「ふるさとの木の文化―木地師の技と現代木工クラフト―」	4/23～6/16	ろくろで引いた椀や盆などの木地師の作品や道具、及び現代の木工クラフト製品を展示し、木地師の技と伝統を紹介する。
「ふるさとの哺乳動物」	7/10～9/8	県内で生息する様々な哺乳動物を展示し、その分布状態や生態について紹介する。
「鹿児島―その自然と歴史」	10/9～11/24	置県120年・岐阜県鹿児島県姉妹盟約20周年記念展。魚介類・植物などの自然資料、土器・陶磁器・遺墨などの人文資料を展示し、鹿児島の自然と歴史を総合的に紹介する。
資料紹介展 「昆虫の世界」	12/12～1/26	県内の様々な昆虫を展示し、その分布・特徴を紹介する。
特別陳列 「学校宝物展」	2/12～3/31	県内高等学校・特殊教育学校で収集保管されている、貴重な資料を展示紹介する。
企画展 「濃尾大震災100年のすべて展」	6/5～6/16	岐阜県・岐阜新聞・岐阜放送主催。県内各地の濃尾大震災の被害資料を展示紹介し、防災意識を高める。
「森の文化展」	9/14～9/23	岐阜県主催。木材や木工製品、森林に関する資料を展示し、森林が人々の共有財産であることを紹介する。
スタディ・コーナー	ふるさとの岩石…堆積岩（3・4月）、岐阜県のチョウ（5・6月）、たべられる「きのこ」（7・8月）、石灰岩の世界（9・10月）、岐阜県の留鳥(1)（11・12月）、岐阜県のスマレ（1・2月）、くらしの中の石（3・4月）	

### 2. 教育普及事業

事業名	期日	対象	定員	内容
特別展講演会	5/12	一般		岐阜県における木器文化 飛騨民俗学会会長 角竹 弘氏
〃	5/26	〃		山に生きた人々―木地師について― 日本木地師学会会長 杉本 壽氏
〃	7/21	〃		身近にいる哺乳動物 奈良教育大学助教授 前田喜四雄氏
〃	8/18	〃		岐阜県下のサルと人 名古屋学院大学教授 廣瀬 鎮氏
記念展講演会	10/13	〃		海を渡る蝶―渡瀬線と生き物たち― 鹿児島県立博物館長 福田晴夫氏
文化講演会	11/3	〃		(友の会共催)
記念展講演会	11/17	〃		近代日本を築いた鹿児島県人 鹿児島大学助教授 原口 泉氏

事業名	期日	対象	定員	内容
県博日曜講座	4/21	小学生以上一般		石のふしぎ
〃	6/9	一般		岐阜県の木地師
特別講座	7/28	小学生以上一般		恐竜の生きていたころ
県博日曜講座	8/4	〃		土器の見分け方
〃	8/25	〃		ふるさとの哺乳動物
〃	10/20	一般		単人の世界
〃	10/27	〃		薩摩藩の形成と発展
〃	11/24	小学生以上一般		鹿児島島の貝
〃	1/12	〃		昆虫と人とのかかわり
〃	1/26	〃		都市と水
〃	2/9	〃		まぎらわしい植物
自然観察会	4/29	小学生以上一般	50人	観察のこみちの樹木をしらべよう(グリーンアドベンチャー事業)
ジュニア恐竜探検隊	8/3~4	親子	50人	恐竜のふるさとをたずねよう 宿泊:白川郷ロッジ
〃	8/10~11	〃	〃	〃
自然観察会	9/8	親子・一般	30人	水生昆虫を調べよう
〃	9/16	〃	〃	観察のこみちの樹木を調べよう
〃	9/23	〃	〃	森の昆虫を調べよう
〃	3/1	小学生以上一般	〃	野鳥をみよう
親子教室	5/3	親子	30人	やきもの1(土器・はにわをつくろう)
〃	6/2	親子・一般	〃	植物標本をつくろう
〃	6/16	親子	〃	やきもの2(日用品をつくろう一施釉)
〃	8/11	〃	〃	火おこし器をつくろう
〃	9/1	〃	〃	竹細工(笛・竹とんぼをつくろう) 竹細工師 石原文雄氏
〃	9/15	親子・一般	50人	木切れをつかってものをつくろう(1)
〃	9/22	〃	〃	〃 (2)
〃	12/1	親子	30人	版画(年賀状をつくろう)
〃	12/8	〃	〃	凧づくり(つくって揚げよう) 竹細工師 石原文雄氏
〃	12/15	〃	〃	わら細工(しめなわをつくろう) わら細工師 大野仁久氏
写生会	2/16	小学生以上一般	100人	博物館資料をかこう(甲冑・土器・鳥・動物など)
ふるさと探訪	3/15	親子・一般	37人	苗木城をたずねて
民俗芸能	5/4	一般		関孫六太鼓(雨天5/6順延)

### Ⅲ 平成2年度のあゆみ

#### 〔職員〕

職名	氏名	職名	氏名
館長	伊藤 秀幸	〔学芸部〕	
次長(兼)総務課長	竹下 修	学芸部長	清水 昭男
〔総務課〕		課長補佐(兼)人文係長	安藤 和男
総務係長	武田 正雄	課長補佐	尾関 章
主任	山口 弘子	〃	川瀬 善忠
主事	鷲見 信明	〃	安田 守
〃	吉田 明美	学芸主事	今津 利治
〃	鈴木 猛久	課長補佐(兼)自然係長	國光 正宏
技師	林 作男	課長補佐	遠藤 俊治
業務嘱託員	石井 敬子	〃	中島 恬
〃	三浦 佳子	学芸主事	後藤 常明
〃	土田 みゆき	学芸嘱託員(5/11～)	長尾 智
〃	島戸 由里子	課長補佐(兼)教育普及係長	堀部 満
〃	青木 千真	学芸主事	大平 高司
〃	藤井 敬子	学芸嘱託員	大沢 淳一
		〃	近藤 普潤

#### 〔日誌抄〕

転出 課長補佐(兼)総務係長 福田 正美  
学芸嘱託員 長谷川道明

転入 総務係長 武田 正雄  
課長補佐 安田 守  
学芸嘱託員(5月11日) 長尾 智

平成2年度

- 4・1 「岐阜県博物館報」第13号発行
- 〃 「博物館だより」第41号発行
- 22 博物館友の会総会
- 〃 自然観察会「水生昆虫を調べよう」
- 23 岐阜県恐竜化石保存等連絡協議会  
岐阜県恐竜化石学術調査推進委員会
- 24 特別展「輪中と治水」開場(6月17日  
まで)
- 29 日曜講座「化石を調べよう」

- 5・3 親子教室「やきもの1(土器・はにわ  
などをつくろう)」
- 5 日曜講座「輪中の生活と知恵」
- 6 民俗芸能「関孫六太鼓」
- 7 岐阜県博物館協会通常総会
- 13 特別展講演会「輪中と治水—洪水と人  
間の相克の歴史—」
- 17 平成2年度四館会議
- 27 特別展講演会「木曾川上流改修工事と  
犀川事件」

- 6・3 親子教室「植物標本をつくろう」
- 10 日曜講座「治水に尽くした人々」
- 24 日曜講座「古鏡の魅力」
- 7・1 親子教室「やきもの2（日用品をつくろうー施釉）」第1回
- 2 恐竜足跡化石レプリカ記者内覧会
- 8 親子教室「やきもの2（日用品をつくろうー施釉）」第2回
- 10 特別展「白山の自然」開場（9月9日まで）
- 〃 恐竜足跡化石レプリカ除幕式



- 13 自然観察のこみちにグリーンアドベンチャー標識設置（財団法人青少年交友協会からの寄付）
- 15 特別展講演会「日本の高山生物と白山」
- 22 日曜講座「白山の昆虫」
- 25 岐阜県博物館協議会  
会長に土屋齊氏決まる  
諮問「新しい時代・県民のニーズに対応できる博物館の在り方について」  
答申文作成のため当協議会に専門部会設置
- 29 特別展講演会「白山火山について」  
〃 入館者130万人達成
- 8・4～5  
自然観察会「白山の自然を訪ねて」
- 9 移動展「ふるさとの植物と動物たち」（飛騨・北アルプス自然文化センター～21日）
- 12 親子教室「火おこし器をつくろう」
- 19 日曜講座「白山の植物」
- 24 移動展「ふるさとの植物と動物たち」（小坂町益田北部山村開発センター～9/2）
- 26 親子教室「竹細工（笛・竹とんぼなどをつくろう）」
- 9・2 日曜講座「手取層群と恐竜」
- 16 自然観察会「秋に鳴く虫とその仲間たち」

- 20 岐阜県博物館協議会・第1回専門部会
- 10・14 ふるさと探訪「金生山の化石とカルスト地形を訪ねて」
- 17 特別展「濃飛の仏像」開場（11月18日まで）  
梶原知事あいさつ
- 28 特別展講演会「日本の仏像の魅力」
- 30 岐阜県博物館協議会・第2回専門部会
- 31 岐阜県恐竜化石保存等連絡協議会
- 11・3 県博友の会主催第1回文化講演会  
「歴史小説の可能性ー蒙古襲来をめぐってー」
- 11 特別展講演会「岐阜県の仏像」
- 13 11月12日月曜日に「即位の礼」につき閉館したため振替休館
- 12・2 親子教室「版画（年賀状をつくろう）」
- 5 岐阜県教育公務員弘済会より文化施設助成として「菊花石」1個贈呈
- 9 親子教室「凧づくり（つくって揚げよう）」
- 14 資料紹介展「貨幣」（1月27日まで）
- 16 親子教室「わら細工（しめなわをつくろう）」
- 20 岐阜県博物館協議会  
「新しい時代・県民ニーズに対応できる博物館の在り方について」答申
- 1・20 日曜講座「貨幣の歴史」
- 2・10 資料紹介展「人と石とのふれあい」（3月31日まで）
- 17 写生会「博物館資料をかこう」
- 24 自然観察会「野鳥をみよう」
- 3・3 ふるさと探訪「前期古墳を訪ねてー東之宮・昼飯大塚古墳などー」



- 14 平成2年度岐阜県博物館協会常任理事会
- 20 岐阜県博物館案内標識を設置
- 24 自然観察会「春の草花」
- 29 特色ある企画と高齢者・障害者に配慮をした特別展に対し知事より親頼誇賞受賞

## 〔実施事業の概要〕

本館を全面的に見直すために、博物館協議会に対し「新しい時代・県民ニーズに対応する博物館の在り方」について諮問した。中間答申には、当面する課題と長期的課題とにまとめた提言が盛り込まれた。平成3年度には見直し調査事業に着手することとなる。また、開館15周年を期して、博物館育ての親棚橋源太郎先生の調査研究にかかわる検討を始めた。年度頭初には喫茶室を自販機コーナーに改変、年度末には案内標識を県道百年公園線口に設置した。

入館者数は71,176人、前年を15,285人超過。

### 1. 調査研究活動

調査研究活動においては、岐阜県恐竜化石学術調査団（事務局・本館）が発足、白川村大白川流域を中心に調査、成果を上げていることが特筆される。人文・自然両分野の既設テーマの追究も進捗、特別展や報告書に一端を発表した。

### 2. 展示活動

特別展は「輪中と治水」「白山の自然」「濃飛の仏像」、資料紹介展は「貨幣」「人と石とのふれあい」をタイトルに開催、いずれも好評を博した。特に、「濃飛の仏像」展においては

文化庁の後援を得て42体の仏像を公開、入館者が1日平均773人に及んだ。高齢者や身体障害者の方々を全職員が自動車で送迎、不便をしのいだ。ただし、資料紹介展において、展示資料の5割以上を借用に頼ることとなり、この見直しが必要となった。（下表参照）

### 3. 資料収集活動

資料収集においては、恐竜足跡化石複製（3×7m）のほか動植物の剥製・複製を購入、また、例年と同様動植物の標本製作に努めた。さらに、昆虫標本（415箱）、菊花石、恐竜足跡化石複製（2.5×1.6m）、植物名称パネル（40本）、刀剣関係書（27冊）、図録『岐阜県の仏像』等多数の寄贈を受けた。一方、人文分野の寄託・借用資料の返却を求められ、この分野の対策が緊急の要となった。

### 4. 教育普及活動

教育活動においては、学芸部職員が恒例の講座のほかに各機関の講演等の要請に多く応えたことが挙げられる。さらに、広報活動を含めその対象機関を広げ、方法を工夫して展開した。特別展の招待券発行、開場式への小学生招待もその例である。一方、図書資料の増加に伴い、図書資料室の拡張が3年度の課題となった。

事業名	期間	主な展示内容	入館者数
常設展	年間	1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土の歩みと美術工芸。刀剣コーナーは年4回展示替え。	71,176
特別展			
・輪中と治水	4/25～6/17	西南濃地方の水との闘いを通して、輪中地域の特色と人々の願いや生活・文化を紹介。	16,056
・白山の自然	7/11～9/9	実態調査と収集した資料に基づき、白山の豊かな自然を総合的に紹介。	10,554
・濃飛の仏像	10/17～11/18	県内の優れた仏像42体を中心に彫刻美術に視点を当てて紹介。（関連事業：安田學石氏コレクション展）	22,426
資料紹介展			
・貨幣	12/14～1/27	日本で用いられた貨幣等7,000点を紹介。	3,051
・人と石とのふれあい	2/10～3/31	暮らしの中の岩石220点を紹介。	7,000
移動展			
	8/9～8/21	動植物を押し葉・剥製標本で紹介。	3,640
	8/24～9/2	飛騨・北アルプス自然文化センター 小坂町益田北部山村開発センター	627

## 〔常設展〕

### 1. 刀剣コーナー

当館では、人文展示室2に刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。2年度は、人文展示室2を秋季特別展「濃飛の仏像」の展示会場にあてたため、10月2日から12月2

日まで人文展示室2の常設展示はできなかった。したがって、例年は4回展示替えを行っているが、2年度は3回とした。2年度の年間展示資料は下記のとおりである。

第 1 期	第 2 期	第 3 期
平成2年5月7日 ～平成2年10月1日	平成2年12月2日 ～平成3年1月27日	平成3年1月28日 ～平成3年3月31日
刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 太刀 銘 兼 光 刀 銘 兼 道 短刀 銘 兼 直 脇指 銘 兼 元 脇指 銘 兼 常 脇指 銘 若 狭 守 氏 房	刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 太刀 銘 兼 光 刀 銘 国 信 太刀 銘 波 平 行 安 脇指 銘 丹 波 守 吉 道 短刀 銘 兼 貞	刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 太刀 銘 兼 光 短刀 銘 兼 貞 刀 銘 濃州関住兼定 刀 無銘 志 津 刀 銘 兼 友

### 2. スタディーコーナー

動物・植物・地学の各分野ごとに、輪番でトピック的な問題を取り上げたり、小さなテーマを設定したりして資料を紹介している。

#### 「ふるさとの化石——新生代」……3月～4月

瑞浪層群産出の貝、サメの歯の化石など、新生代の化石について紹介。

#### 「岐阜県のヘビ」……5月～6月

ジムグリ、シロマダラ、ニホンマムシなど県内に生息する8種類のヘビすべてを骨格、液浸標本を用いて紹介。

#### 「百年公園のきのこ」……7月～8月

百年公園で見られるきのこ（菌類）を写真パネル、乾燥標本、液浸標本を使って紹介。マツタケをはじめ食用・有毒種32種を展示。

#### 「ふるさとの地下資源——金属鉱床」

……9月～10月

神岡鉱山から寄贈を受けた閃亜鉛鉱など、主に金属鉱石を多数紹介。

#### 「ふるさとの冬鳥」……11月～12月

ふるさとの鳥シリーズの第1回目として、冬鳥を取り上げた。冬期県内の河川、湖沼で見られるガンカモ類を中心に紹介。

#### 「岐阜県のネコノメソウ」……1月～2月

岐阜県産ネコノメソウ属の全種（11種6亜種）をカラー写真付腊葉標本と写真パネル、分布図、鉢植えの実物によって紹介。

#### 「ふるさとの岩石——堆積岩」……3月～4月

日本最古の礫を含む礫岩や、放散虫化石を含む頁岩など、県内に分布するいろいろな堆積岩を紹介。



## 〔特別展〕

### 1. 輪中と治水

4月25日(水)～6月17日(日)

岐阜県は、「飛山濃水」の言葉で端的に表現されるように、飛騨国は山、美濃国は水が歴史文化形成の上で重要な役割を果たしてきた。特に美濃の西南濃地方の人々は、低湿で広大な濃尾平野を流下する木曾三川の多量の水との相克の中で、「輪中」という独特な形態を生みだしてきた。輪中地域は、木曾三川の豊かな水の恩恵を受ける反面、生命財産を一瞬の内に奪い去る洪水の脅威と対峙して生きていかざるを得ない宿命をもっている。それ故に人々は絶えず水とのかかわりの中で、社会生活を営んできた。

今回の特別展では、往古から近現代に至るまでの間の輪中地域の変遷を治水という視点からとらえ、この地域に形成された独特な歴史文化を紹介した。

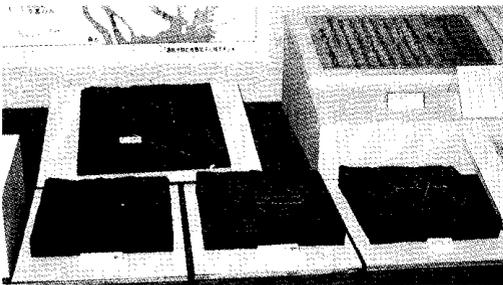
#### ＜展示構成の概要＞

##### (1) 西南濃地方の自然

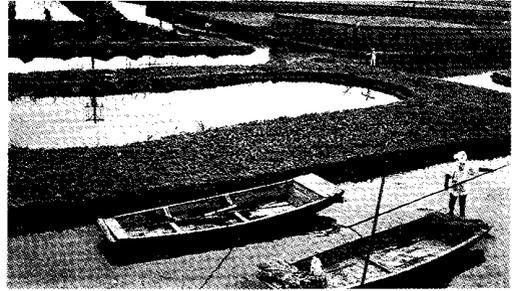
美濃と尾張にまたがる広大な濃尾平野の中下流域にあたる西南濃地方には数多くの輪中が形成された。この地方に輪中という独特の形態が形成されたのは、木曾三川が網目状になって合流する地点であったことや、濃尾造盆地運動によって今なお沈下している所であるなどの理由からである。こうした輪中形成の自然的要因を、地質標本、地形・地下模式図や降水量グラフなどで紹介した。

##### (2) 輪中への歩み

このコーナーでは、低湿地であった西南濃地方へ人間が生活の場を求めてから、輪中が形成



▲堤防の変遷模型展示風景



▲堀田と田舟（河合孝氏撮影）

されるまでの歩みを紹介した。この地方からの出土品や堤に関する古文書・地図とともに、自然堤防・尻無堤・潮除堤・霞堤などの模型でわかりやすく理解できるようにした。

##### (3) 輪中の成立と発展

輪中が成立したのは江戸時代初期である。輪中地域を代表する高須輪中と大垣輪中をもとに成立と発展の様子を示した。輪中の成立を類推できる絵図・古文書を展示するとともに、輪中が水防共同体としての機能をもつものであったことを示した。また水害が多発化する中で、人々の治水への取り組みが積極的に行われた。宝暦治水と堀田の造成・水屋の建築を象徴的に紹介した。

##### (4) 輪中の近代化

水害の根本的解消をめざした木曾三川分流工事の概要と、それに尽力したデレーケ、片野万右衛門、金森吉次郎、山田省三郎の業績を地図や遺品をもとに紹介した。

##### (5) 輪中の生活

農業、漁業、日常生活の様子を民具や写真資料を通して紹介し、輪中の人々の生活の知恵を解説した。

#### ＜関連事業＞

##### ○特別展講演会

「輪中と治水—洪水と人間の相克の歴史—」

5/13(日) 花園大学教授 伊藤安男氏

「木曾川上流改修工事と犀川事件」

5/27(日) 郷土史家 後藤時男氏

##### ○県博日曜講座

「輪中の生活と知恵」

5/5(祝) 片野記念館長 片野知二氏

「治水に尽くした人々」 6/10(日)

## 2. 白山の自然

7月11日(火)～9月9日(日)

岐阜県は、山紫水明の県土で自然が大切に守られている。その中で、高山帯を有する白山は、ここを分布の西南限としている高山植物が多く、植物分布上重要な山である。また、白山地域には、ブナの原生林が豊かにあり、大小様々な動物が見られる日本有数の動物の生息地でもある。

白山の山頂部には、白山火山の変化に富んだ火山地形が見られる。また、白山地域には、中生代の手取層群が広く分布している。この地層は、多くの動植物の化石を含み日本の古生物学が黎明期にあったころから研究された地層である。しかし、近年この地層から恐竜の足跡化石などが発見され、全国的に注目されている。

このような豊かな自然は、長い歴史的所産であり、先祖が大切に残してきた文化遺産ともいえる。

この特別展では、実態調査と収集した資料を中心に、動物・植物・地学の各分野の資料770余点を総合的に紹介し、「美濃の白山」への理解と、「自然との触れあい」を深める一助となることを意図して企画した。

### <展示内容>

展示は、次の3つのコーナーで構成した。

#### (1) 白山賛歌

白山地域の自然への導入として、地形・地質・気候・風土について、地形模型、特徴的な岩石・鉱物、民具などを展示した。

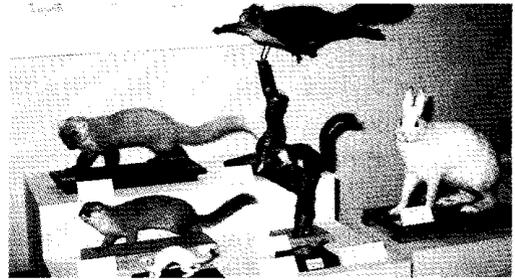


#### (2) 白山の化石と岩石

恐竜の足跡化石や動植物化石と岩石資料を通して、この地域の自然史を紹介した。また、二重山稜や大窪沼の調査研究成果についても展示した。

#### (3) 白山の生物

このコーナーは、白山の動物（哺乳動物、鳥類、昆虫など）、白山の植物（ブナ林、高茎草原・白山のお花畑）、白山の菌類、白山の名をもつ生物、ブナ林の生態ジオラマより構成し、自然史的観点のほか人々の暮らしとのかかわりも明らかにすることを展示の目的に含めた。そのため、標本の展示だけでなく、解説パネル、生態写真、拡大写真、人々の暮らしでの使いなど多くの補助資料を用い、楽しく、親しみやすい展示となるよう留意した。また、それを通して、自然の意義と自然と調和のとれた生活の大切さを訴えた。



#### ○動物部門の展示

主にブナの原生林に住む動物と高山帯に住む動物に分けて展示し、白山の動物相の特徴や、高山帯の意義を浮き彫りにする展示とした。

#### ○植物部門の展示

ブナ林の意義、白山の生物分布上の特徴、菌類の分解者としての意義など、白山の特徴と自然の大切さを展示に生かした。

#### ○白山の名をもつ生物

白山の山の名にちなんで名付けられた生物が50種ほどある。そのうち24種を紹介した。

### <関連事業>

#### ○特別展講演会

「日本の高山生物と白山」

7/15(日) 名古屋女子大学教授 佐藤正孝氏

「白山火山について」

7/29(日) 石川県白山自然保護センター

専門研究員 東野外志男氏

#### ○県博日曜講座

7/22(日)「白山の昆虫」 8/19(日)「白山の植物」

9/2(日)「手取層群と恐竜」

### 3. 濃飛の仏像

10月17日(水)～11月18日(日)

畿内に近い郷土岐阜県は、早くから中央文化の影響を直接受けてきたため、仏教文化をはじめ歴史的・芸術的にも優れた文化財が数多く伝えられてきた。

仏教が岐阜県全般に広まったのは、平安時代になって新仏教がその勢力を地方にのばしはじめたころからである。このころには全県下にわたりかなり多くの寺院が建立された。その歴史を示すかのように、県内には平安時代の仏像をはじめとし、優れた仏像・仏画などが広範囲に数多く現存している。

長い歴史を経てきたこれらの仏像は、様々な姿・形をしており、その背後にはそれを造り、守った人々の深い願いがある。仏像は信仰の対象として、人々の心の支えとして、生き続けてきたふだん鑑賞することのできない貴重な資料である。

本展では、県内に保管されている優れた仏像の数々を彫刻美術に視点をあて、そのすばらしさを紹介するとともに、本展を通して、先人たちの心のよりどころであった仏像に親しみ、仏像を理解し、さらに郷土の歴史・文化についても理解していただく一助になるよう企画した。

#### <展示資料数>

- 国指定重要文化財仏像 17軀
- 国指定重要文化財仏画 2幅
- 県指定重要文化財仏像 17軀
- 市町村指定・無指定仏像 8軀
- その他当館所蔵複製仏像 9軀
- 造像模型(奈良博所蔵) 12軀
- 造像模型(山崎隆之氏蔵) 5軀



#### <主な展示構成>

##### ○いろいろな仏像

「如来・菩薩・明王・天」の4種類に大別し、仏の役割、形の特徴、材質と技法、様式の移り変わりに視点をあていろいろな仏像を紹介した。

##### ○時代ごとに見る県下の仏像

国・県指定重要文化財の仏像をはじめ、県下各地に保管されている優れた仏像を時代ごとに紹介した。

#### <本展の特色>

・文化庁後援のもとに重要文化財の仏像が一挙に公開されることは本県においては初めてのことであり、このような大規模な展覧会に対して全国的な注目を集めた。

・門外不出の仏像や学術上注目される仏像が間近に拝観できる絶好の機会であったことから近年にない多くの入館者を記録した。

・高齢の入館者が多かったため、会期中毎日担当者と解説員でわかりやすい解説に心がけた。また、当番を決めて博物館職員が車で老人の送迎に努めた。

#### <関連事業>

##### ○特別展講演会

「日本の仏像の魅力」 10/28(日)

成城短期大学学長 清水眞澄氏

「岐阜県の仏像」 11/11(日)

岐阜市文化財審議委員 吉岡 勲氏

##### ○資料紹介展「安田學石コレクション」

安田學石氏の寄託資料も含め特別展示室に仏像・仏画約80点を紹介した。

##### ○「岐阜県の仏像」出版

県内の国重文仏像と展示した仏像及び安田コレクションを収録。B5版総カラー144ページ。

## 〔資料紹介展〕

### 1. 貨幣

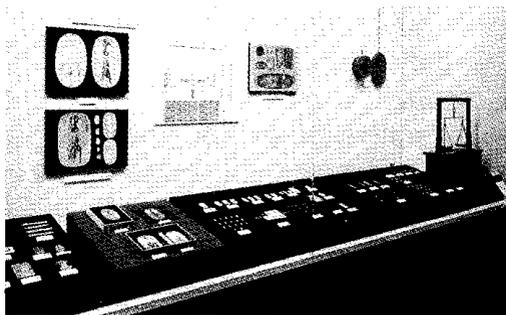
12月14日(金)～1月27日(日)

貨幣は、自分の物と他人の物を交換して欲しい物を手に入れるようになった時、交換の仲立ちとして生まれた。当初は、交換される物と等価な商品（稲、矢じり、布、砂金など）が多く用いられたが、後に金属が貨幣として優れた性質をもっていたため、広く用いられた。

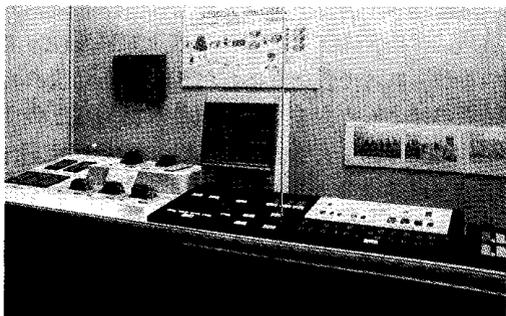
日本では708年に和同開珎が铸造されてから現在に至るまで、様々な貨幣が使われてきた。奈良～平安時代の皇朝銭、平安～江戸時代初期の宋・元・明などからの渡来銭、江戸時代の金貨・銀貨・銭貨や藩札など、明治以降の近代貨幣など、多種多様である。貨幣単位、名称、形態も時代によって大きく変わっている。貨幣はまさに「その時代を写し出す鏡」であり、時代とともに生きた貴重な文化遺産でもある。

当館では、平成元年度に県内のコレクターから多数の貨幣関係資料の寄託を受け、資料紹介の準備を進めてきた。今回の資料紹介展では寄

#### ▼展示風景 I



#### ▼展示風景 II



▲享保大判(万延書き)

託資料・館蔵資料を中心に、日本で使用された貨幣を時代ごとに分けて展示したが、展示構成上一部資料を借用せざるを得なかった。この展示を通して貨幣の変遷を知るとともに、貨幣を通してその時代の政治経済や文

化世相を見つめ、貨幣の果たした役割を考える機会になることを意図した。

#### <展示内容>

##### I 古代・中世の貨幣

物品貨幣（6種8点）、古代中国の貨幣（5種20点）、皇朝銭関係（15種22点）、渡来銭（69種460点）、戦国時代の貨幣（8種16点）を展示し、日本では貨幣が中国と大きなかわりをもっていたことを紹介した。

##### II 江戸時代の貨幣

大判・小判などの金貨（21種70点）、銀貨（15種74点）、銭貨（38種108点）の外、藩札類（60種85点）を展示して、貨幣制度を示すとともに、幕府や藩が貨幣改鋳や藩札の発行を通して財政難を切り抜けようとしたことを紹介した。

##### III 明治以降の貨幣

硬貨類（42種571点）、紙幣類（38種77点）を発行年順に展示し、材質や図案（肖像、紋様、文字など）の移り変わりから、時代相がわかるようにした。

##### IV 貨幣と人々の暮らし

このコーナーでは貨幣にかかわる物（財布、銭刀など）を30種230点、記念硬貨27種252点を展示し、貨幣と生活の結びつきの深いことを紹介した。

なお、同種の貨幣でまとまって展示をした資料を1点と数えると、総数34,076点、その他貨幣入り額9点、写真パネル11点を展示した。

#### <関連事業>

- 県博日曜講座 1/20(日)「貨幣の歴史」
- 配布資料 パンフレット「貨幣の歴史」

## 2. 人と石とのふれあい

2月10日(日)～3月31日(日)

私たち人類は、先史時代の遠い昔から石で作った用具を暮らしに用いてきた。科学技術が進んだ今日、石は様々な姿で私たちの暮らしを支えている。二十一世紀においても、石は資源としてますます重要になると思われる。

ふるさと岐阜県は、先史時代の石器に使われた下呂石（石英安山岩質の溶岩）、漆喰・肥料の原料となった石灰岩、墓石・土木建築用材などに使われた花崗岩、銀・錫などの鉱石など、様々な石を産出している。現在岐阜県は、最新の技術を生かした大理石・石灰・金属鉱業やセラミックス工業など石の産業が盛んである。

この資料紹介展では、先史時代の石器から現代科学の生み出した石製品まで、主に、ふるさとの石と製品を展示する。石のもついろいろな性質を調べ、私たちの生活と切っても切れない関係にある石について、自然科学の立場から明らかにしてみたいと考え、この資料紹介展を企画した。

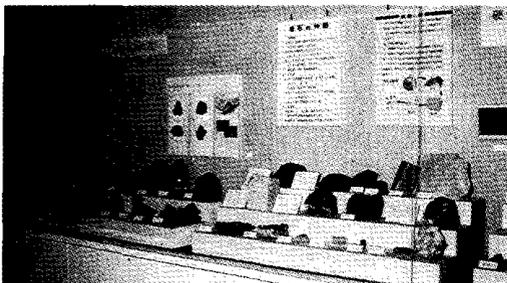
### <展示内容>

この資料紹介展は、実物資料数約400点、解説パネル11点、写真パネル14点、模型3点を展示した。

展示は、次の4コーナーで構成し、楽しく、わかりやすい展示となるよう留意した。

#### (1) いろいろな石

この資料紹介展の導入部として、このコーナーを企画した。展示資料は、石のモチーフ、鍾乳石、紫水晶の晶洞、ふるさと岐阜の水石（趣味の観賞石）や石製品によく使われている石を中心に展示し、石に親しむ人々の様子や岩石、鉱物の基本事項を紹介した。



#### (2) 硬く、重く、美しく、朽ちない石

このコーナーでは、暮らしの中の石製品を紹介する中で、人々がそれらの製品に託した願いや、石質、岩石名、加工法などを明らかにすることを意図し、歴史性も加味しながら石器、硯、文鎮、花瓶、砥石、火打ち石、狛犬、道祖神、女神像、宝石、絵具など多数展示した。



#### (3) 産業資源の石

石から金属を取り出すことを知った人類は、金属の使用によって生産性を飛躍的に高め、今日の文明を築いてきた。この様子を神岡鉱山の操業の様子やテレビ受像機とそれをつくる鉱物などで紹介した。また、肥料、セメント、製鉄、食料など極めて多分野で大切な原料として使われている石灰岩や、容器の分野で欠くことができない陶磁器の原料などを紹介し、石の姿を留めていない石を紹介するコーナーとした。

#### (4) 新時代の石

陶磁器は、さびない、燃えない、硬い、形をつくりやすいなどの優れた性質をもっている。しかし、石本来の性質を十分に発揮していない。そのため、高純度の原料を精密に成形し、よく制御された焼成法で焼成して、高度の寸法精度でファイン・セラミックス製品をつくる技術が、近年確立されてきた。

ファイン・セラミックスは、アルミナ、窒化珪素、ジルコニアなど様々な人工原料を使ってつくられたもので、高純度物質のもつ優れた特性のほとんどが生かされ、IC基盤などの半導体製品や包丁・ハサミ・ガスセンサー・宝石・繊維・自動車のエンジンなど極めて多方面に利用できる石器である。

このコーナーは、新時代における石の活用を考える機会となるよう意図した。

## 〔調査研究・資料収集活動〕

### —自然部門—

#### 1. 調査研究

##### 動物分野

##### (1)白山、恵那山の調査及び資料収集

小型哺乳動物と昆虫類に重点を置き、白山東斜面及び恵那山黒井沢登山道沿いを調査した。

##### <収集した主な標本>

アカネズミ、ヒメネズミ、ヤチネズミ、スミスネズミ、ヒミズ、ホンシュウトガリネズミ、ハクサンマイマイ、キオビクロスズメバチ、ベントンモリヒラタゴミムシ、コホソクビゴミムシ、ホソサビロモンキハネカクシ、ホソヒラタシデムシ、ウスイロオサシデムシ、ムナグロホソツヤシデムシ、ルイスチビシデムシ、ヒロバネヒナバツタ、カマドウマ

##### (2)県内鳥類調査

百年公園内におけるホオジロの繁殖期のなわばり、美濃地方のカラスの<sup>ねぐら</sup>の壱など県内で見られる鳥類の生態調査を行い、鳥類のスライド30点を収蔵した。

##### 植物分野

##### (1)白山植物分布調査及び資料収集（5月～11月）

ワリ谷、間名古谷入口、大白川～大倉山、白山平瀬道、白山南縦走線（油坂ノ頭～天池の北）において、資料収集・植生調査・写真撮影を行った。資料収集は、ハクサントリカブト、ハクサントイゲキ等14種、ネコノメソウ属3種、スゲ属22種、スミレ属6種、カンチコウゾリナ、菌類73種以上であった。また、植生調査は白山南縦走線の油坂ノ頭、天池の北で行い、この結果は「調査研究報告」で発表。撮影写真は、特別展図録「白山の自然」に活用した。収集資料の一部は特別展資料とした。

##### (2)スゲ属植物標本の収集と資料目録作成

岐阜県産スゲ属植物の調査にかかわり、本県産のほとんどを収蔵・登録した。その総数は約800点になる。また、そのため乗鞍岳のカヤツリグサ科スゲ属、イネ科植物の収集も行った。結果は「調査研究報告」で発表。

##### (3)ネコノメソウ類、菌類その他の資料収集

昨年度に引き続き、県内各地で各種の植物資料を収集した。ネコノメソウ類の調査収集にあたっては、新たにチシマネコノメソウとキバハナネコノメを県内産植物につけ加えた。

##### 地学分野

##### (1)岐阜県恐竜化石学術調査

平成元年、岐阜県大野郡白川村大白川上流域で恐竜足跡化石が発見されたのを機会に、本年度学術調査団が結成された。

調査団は長谷川善和横浜国立大学教授を団長とした総勢15名で構成された。

調査活動は、足跡化石が発見された大白川上流域で12日間、ヒブシロフォドンの歯の発見された荘川村尾上郷流域で3日間行われた。



調査内容は、化石班が動物化石を中心とした採取、地質班が地質調査およびこの地域の絶対年代を測定するための岩石の調査、採取であった。

調査結果および成果は、恐竜化石等28点の採取、大白川上流域の地質図の作成など大なるものがあつた。

##### (2)白山の自然調査

特別展「白山の自然」開催に向けて、岐阜大学小井土助教授の指導のもと、白山の岐阜県側地域の岩石、地質調査を行った。

この地域に分布している濃飛流紋岩、砂岩、礫岩など6点を収蔵し、特別展で展示した。

##### (3)資料紹介展開催準備調査

資料紹介展「人と石とのふれあい」の準備のため、神岡鉱山や大理石会社などで、調査および資料収集を行った。

神岡鉱山産鉱石など20点を新たに収蔵し、資料紹介展で展示した。

2. 資料数一覧

(平成3年3月31日現在)

分野	館 蔵				借用	寄託	計
	実物	複製	移管・自作 その他	寄贈 (内数)			
動物	30,007	16	164	(16,609)	15	0	30,202
植物	12,453	44	190	(732)	0	0	12,687
岩石・鉱物	2,025	5	73	(536)	19	0	2,122
化石	1,947	32	20	(1,068)	47	28	2,074
その他	63	22	168	(21)	0	0	253
計	46,495	119	615	(18,966)	81	28	47,338

3. 資料寄贈者芳名一覧 (敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
ホンドギツネ	1	河村 慶郎	アユカケ・カジカ	2	水川 一郎	スクミリンゴガイ外	2	宮崎 惇
"	1	大沢 真美	ヤ マ メ	1	加我 重蔵	海産貝類	260	荒古 健助
ホンドタヌキ	1	井藤 敏朗	ア ユ	6	水川 一郎	イセノナミマイマイ	3	伊藤かづゑ
"	1	大沢 真美	アユカケ	1	鈴木 秀男	ヤマタニシ外	7	前田喜四雄
ホンドイタチ	1	今井 雅巳	アオゲラ	1	美濃島由三	カラスガイ	6	梶田 利明
コウベモグラ	1	亀山 友一	スズメ	1	川上 美里	貝	70	高島 利次
"	3	保母 武三	キジ	1	山田三枝子	ヒメタニシ	2	渋谷 充子
"	1	宮崎 惇	アオゲラ・ウグイス	2	堀田 勝	オナジマイマイ外	4	二村千鶴子
"	1	正村 英之	カルガモ	1	大沢 真美	カネツケシジミ外	9	宮崎 惇
"	1	酒井 初造	ツツドリ	1	長野 浩文	クマゼミ	1	赤座 憲久
"	1	水野 清忠	オオミズナギドリ	1	第2恵光学園	コオイムシ	1	桜井 興平
ヒミズ	1	原 淑子	ノゴマ	1	小林すみゑ	ギフチョウ外	1500	太田 等
"	1	中田 宇元	キビタキ	1	高木 正弘	植物標本	267	二村 延夫
ニホンリス	1	東山 熙	"	1	福井 昌弘	蘚苔類標本及び写真	595	川瀬 仙吉
ハクビシン	1	大沢 力	フクロウ	1	神谷美保子	キンシゴケの一種外	10	宮崎 惇
テン	1	村井 敏郎	ヤマドリ	1	足立たか子	ヒナノシヤクジョウソウ	1	東山 熙
ヌートリア	1	大沢 真美	コシアカツバメ	1	東山 熙	県内産植物標本	135	長瀬 秀雄
アブラコウモリ	1	森 義男	メボソムシクイ	1	谷渕志津恵	方鉛鉱外	30	神岡鉱業㈱
シロマダラ	1	戸川 誠	ツツドリ	1	栗本 浩衣	石 炭	10	中部物産㈱
クロサンショウウオ	1	杉山 政広	サルボウガイ	1	小林すみゑ	バラ輝石	1	高橋 克馬
サツキマス	1	水川 一郎	カワシンジュガイ	1	宮崎 治郎	石材サンプル	2	和田大理工業㈱
					大沢 真美	恐竜足跡化石	1	円尾 博美



▲珪灰鉄鉱 (神岡鉱業株式会社寄贈)



▲緑鉛鉱 (神岡鉱業株式会社寄贈)

—人文部門—

1. 調査研究

考古分野

- (1)東西の接点としての岐阜県内の前期古墳の分布傾向に関する調査研究。
- (2)平成3年度記念展「鹿兒島」に向けての考古分野に関する調査研究。

歴史分野

- 平成2年度資料紹介展「貨幣」にむけての調査研究。

美術・工芸分野

- (1)平成2年度特別展「濃飛の仏像」に向けての

調査研究。

- (2)重要文化財に視点をあて「岐阜県の仏像」として一冊の書にまとめ出版。また、「胎内銘文のある仏像」として「調査研究報告」にまとめる。

民俗分野

- 平成3年度の特別展「ふるさとの木の文化—木地師の技と現代木工クラフト—」に向けての調査研究。

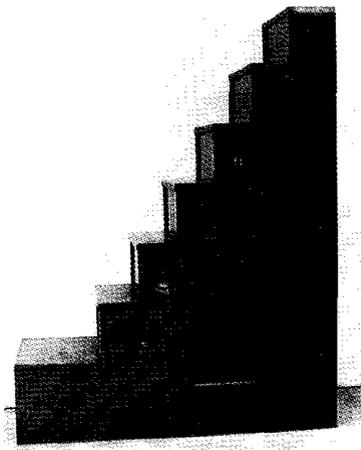
2. 資料数一覧

分野	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	その他	寄贈(内数)			
考 古	1,993	166	52	(1,797)	601	186	2,998
歴 史	1,183	31	122	(1,170)	21	145	1,502
民 俗	2,019	2	9	(2,019)	213	19	2,262
美術・工芸	225	17	37	(171)	274	1,251	1,804
そ の 他	0	0	0	(0)	0	1	1
計	5,420	216	220	(5,157)	1,109	1,602	8,567

複製には模型・ジオラマを含む(平成3年3月31日現在)

3. 資料寄贈者芳名一覧(敬称略・順不同)

資 料 名	点数	芳 名
ハコダン、厘秤外	9	白 木 善 雄
ビデオカメラ、ビデオコーダー外	14	県教委社会教育課
千歯、マンガ	3	木 戸 口 友 勝
箏箏	1	河 野 美 恵 子
消防ポンプ	1	岐阜市三輪地区
進駐軍キャンディーボールの包紙	1	宮 崎 惇
5人組極帳外古文書等	118	若 狭 和 朋



▲ハコダン(白木善雄氏寄贈)

## 〔教育普及活動〕

### 1. 概略

2年度は、館内の教育活動・広報活動に特に力を入れた。来館者の増加や催しものへの参加者増加にささやかながら貢献できたと思われる。

### 2. 教育活動

教育活動の一つとして、日曜日に行っている様々の催しものがある。2年度も別表のように行い、延べ2279人も多くの参加者（1回平均71人）があった。特別展講演会「日本の仏像の魅力」は参加者が300人を超え、講堂に入りきれなかった。また、「やきもの2（日用品をつくろう―施釉）」は申込者が多かったため、2回に分けて行った。

新たな催しものとしては、友の会と共催で行われた文化講演会（講師―小説家山田智彦氏）がある。大変好評で、3年度以降も継続して行われる予定である。

団体入館者に対しては、従来どおり入館時のガイダンスや案内解説を行った。その中で、いくつかの学校団体には、十全な打合せの上、学芸員が講義をする博物館学習を行った。今後このような博物館学習を、より充実させたいと考えている。また、特別展開場式には、初めて関市内の小学校を招き、大変好評であった。

博物館と学校教育を連携する試みとしては、美濃教育事務所との協力の下で当館で行われる美濃地区初任者研修があげられる。ここ2年は、教員相互のグループ研修を取り入れ、博物館学習に対する理解の深まりを図っている。

### 3. 解説員研修

コンパニオンの中心的業務を明確化するため、コンパニオンの名称を“解説員”と改めたので、この研修も「解説員研修」と呼ぶことになった。

2年度は、解説演習を取り入れ23回行い、解説の力のレベルアップに努めた。特別展には、多くの来館者に解説を行った。

### 4. 移動展

吉城郡上宝村平湯と益田郡小坂町小坂で行った。

○飛騨・北アルプス自然文化センター（上宝村）

・期間 8/9～8/21（うち12日間）

・入場者数 3,640人

○益田北部山村開発センター

・期間 8/24～9/2（10日間）

・入場者数 627人

飛騨・北アルプス自然文化センターでは、特設会場の外に、既設の展示室の中に他の展示物と融合させる形で展示した。両会場とも好評であったが、特に上宝村の会場では、県外の人も含む多くの来場者に見てもらった。

### 5. 広報活動

例年の広報活動の外に、特別展に関連した各種団体への出張広報に努めた。対象とした団体は、郡市の校長会、水防組合・自治会・仏教会等である。関市内の各家庭へは、自治会組織を通じて特別展のちらしを回覧した。また、三つの特別展、一つの資料紹介展において、1紙または2紙への新聞連載を行い注目を集めた。

県外への広報に関しては、愛知県尾張教育事務所と海部教育事務所の市町村教委ポストを通じて資料配布が可能になり、広報活動の組織化が実現できた。

以上のように、活発な広報活動を行い、一定の成果を上げたと思われる。今後も効果的な広報活動のあり方を追求していきたい。

### 6. 資料の貸し出し

他館での展示会に貸し出した主な資料（2年度は自然分野のみ）。

○伊自良村歴史民俗資料館（7.27～9.4）

・昆虫標本 10箱

・写真等パネル 5点

○三重県立博物館（10.4～11.18）

・哺乳動物剥製 6点

○岐阜県美術館（3.2.22～3.5）

・哺乳動物剥製 5点

### 7. 博物館実習生指導

東京学芸大学の学生1名を指導した。

### 8. 図書資料

図書資料室と郷土学習室では約19,000冊の本を開架式で来館者の利用に供している。購入による資料収集の外、他館との資料交換、寄贈等により年々その資料は充実してきている。2年

度は岐阜県教職員互助会より多数の刀剣関係の本の寄贈を受け、「刀剣文庫」を設置した。また、友の会からは『続日本の絵巻物』（全20巻）『読売年鑑1991』の寄贈を受けた。

### 9. 刊行物

元年度まで、自然部門の特別展では入館者全員に特別展パンフレットを無料配布していたが、2年度はカラー写真を入れページ数も増やし、人文部門と同様の図録として友の会で販売した。

また、特別展の図録「岐阜県の仏像」は県内のほとんどすべての重要文化財の仏像を総カラー写真で紹介した画期的なものであった。（安田學石氏より1,300冊寄贈を受けた。）

特別展には、クイズや概要説明のプリントを配布した。

### 10. 視聴覚関係

郷土学習室で常時ビデオを上映した。特別展においては、テーマに関連した16mmフィルムやビデオテープを上映した。特に「輪中と治水」展の時の16mmやビデオテープ（アニメ）は好評であった。

寄贈されたビデオテープは「代官川崎平右衛門」「安田學石コレクション」「ある日の藤城さん親子」「岐阜市の年中行事」など5本である。

平成2年度 刊行物一覧

名 称	発行年月日	判・頁	部 数	備 考
岐阜県博物館だより 第41号	2. 4. 1	B 5 4頁	2,500	友の会増刷 (各1,000)
“ 第42号	2. 7. 1	“ “	“	
“ 第43号	2. 10. 1	“ “	“	
岐阜県博物館報 第13号	2. 4. 1	B 5 32頁	750	
岐阜県博物館調査研究報告 第12号	3. 3. 31	B 5 54頁	700	
平成2年度岐阜県博物館催しもの案内	2. 4. 1	B 4 表裏	25,000	
“	“	B 3 表	10,000	
岐阜県博物館リーフレット（改定版）	2. 6. 11		60,000	
特別展図録				友の会増刷
輪中と治水（図録）	2. 4. 25	B 5 52頁	600	(3,500)
白山の自然（図録）	2. 7. 11	B 5 36頁	600	(700)
岐阜県の仏像（図録）	2. 10. 17	B 5 144頁	200	(3,400)
飛驒の匠（三版2刷）	3. 1. 1	B 5 69頁	(1,500)	友の会増刷
特別展ポスター・ちらし				
輪中と治水（ポスター）	2. 4. 16	B 2	1,500	友の会発行
“（ちらし）	2. 4. 16	B 5	(15,000)	
白山の自然（ポスター）	2. 6. 9	B 2	1,500	友の会発行
“（ちらし）	2. 6. 9	B 5	(15,000)	
濃飛の仏像（ポスター）	2. 9. 3	B 2	2,000	友の会発行
“（ちらし）	2. 9. 3	B 5	(40,000)	
人と石とのふれあい（ちらし）	3. 2. 10	B 5	(20,000)	友の会発行
資料紹介展パンフレット				
貨幣（パンフレット）	2. 12. 14	B 5 10頁	1,000	
人と石とのふれあい（パンフレット）	3. 2. 10	B 5 34頁	500	
テレホンカード				
恐竜足跡化石と漣痕	2. 5. 1		(500)	友の会発行

平成2年度 催しもの一覧・日曜映写会・特別展等ビデオ

事業名	期日	対象	定員	内 容	参加人数
特別展講演会	5/13	一 般		輪中と治水—洪水と人間の相克の歴史— 花園大学教授 伊藤安男氏	162
”	5/27	”		木曾川上流改修工事と犀川事件 郷土史家 後藤時男氏	142
”	7/15	”		日本の高山生物と白山 名古屋女子大学教授 佐藤正孝氏	107
”	7/29	”		白山火山について 石川県白山自然保護センター専門研究員 東野外志男氏	54
”	10/28	”		日本の仏像の魅力 成城短期大学学長 清水真澄氏	312
文化講演会	11/3	”		歴史小説の可能性—蒙古襲来をめぐる— (友の会共催) 小説家 山田智彦氏	186
特別展講演会	11/11	”		岐阜県の仏像 岐阜市文化財審議委員 吉岡勲氏	240
県博日曜講座①	4/29	小学生以上一般		化石を調べよう—微化石の世界—	64
” ②	5/5	”		輪中の生活と知恵 片野記念館長 片野知二氏	61
” ③	6/10	”		治水に尽くした人々	28
” ④	6/24	一般		古鏡の魅力	21
” ⑤	7/22	小学生以上一般		白山の昆虫	29
” ⑥	8/19	”		白山の植物	63
” ⑦	9/2	”		手取層群と恐竜	56
” ⑧	1/20	一 般		貨幣の歴史	40
自然観察会	4/22	小学生以上一般	30	水生昆虫を調べよう	25
”	8/4~5	親 子	”	白山の自然を訪ねて(白川郷ロッジ宿泊)	43
”	9/16	小学生以上一般	”	秋に鳴く虫とその仲間たち	54
”	2/24	”	”	野鳥をみよう	24
”	3/24	”	”	春の草花	27
親子教室	5/3	親 子	30	やきもの1(土器・はにわなどをつくろう)	55
”	6/3	親子・一般	”	植物標本をつくろう	29
”	7/1	親 子	”	やきもの2(日用品をつくろう—施釉)(第1回)	67
”	7/8	”	”	” ” ” ” (第2回)	63
”	8/12	”	”	火おこし器をつくろう	42
”	8/26	”	”	竹細工(笛・竹とんぼなどをつくろう)	52
”	12/2	”	”	版画(年賀状をつくろう)	35
”	12/9	”	”	凧づくり(つくって揚げよう)	33
”	12/16	”	”	わら細工(しめなわをつくろう)	49
写生会	2/17	小学生以上一般		博物館資料をかこう(甲冑・土器・鳥・動物など)	42
ふるさと探訪	10/14	親子・一般	37	金生山の化石とカルスト地形を訪ねて	46
”	3/3	”	”	前期古墳を訪ねて—東之宮・昼飯大塚古墳など—	28
民俗芸能	5/6	一 般		関孫六太鼓(午前・午後2回実施)	約800
日曜映写会 特別展等ビデオ 上映	4/25~ 6/17 7/11~ 9/9 10/17~ 11/18 2/10~ 3/31	入 館 者		「輪中」(16mm)、「薩摩義士—木曾川にいでむ」(ビデオ) 「自然 そのたくましき管み」「冬を生きるニホンカモシカ」「桑島の恐竜化石」(以上ビデオ) 「濃飛の仏像」(ビデオ) 「亜鉛のふるさと—飛騨神岡—」(ビデオ)	

## 〔図書資料寄贈者芳名一覧〕

(平成2年4月1日～  
平成3年3月31日)

### 〔博物館関係〕

国立民族学博物館  
国立歴史民俗博物館  
国立科学博物館、附属自然植物園  
東京国立博物館  
東京国立近代美術館  
京都国立博物館  
憲政記念館  
岐阜県美術館  
岐阜県歴史資料館  
岐阜県立図書館  
岐阜市科学館  
岐阜市歴史博物館  
各務原市歴史民俗資料館  
内藤くすり記念博物館  
羽島市歴史民俗資料館  
大垣市郷土館  
大垣市歴史民俗資料館  
岐阜県陶磁資料館  
瑞浪陶磁資料館  
美濃陶磁歴史館  
瑞浪市化石博物館  
高山市郷土館  
アイヌ民俗博物館  
釧路市立博物館  
小樽市博物館  
札幌芸術の森  
利尻町立博物館  
苫小牧市博物館  
根室市博物館開設準備室  
ひがし大雪博物館  
北海道開拓記念閣  
北海道開拓の村  
斜里町立知床博物館  
穂別町立博物館  
青森県立郷土館  
八戸市博物館  
岩手県立農業博物館  
岩手県立博物館  
仙台市博物館  
仙台市歴史民俗資料館  
東北陶磁文化館  
東北歴史資料館  
鹽竈神社博物館  
秋田県立博物館  
秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館  
山形県立博物館  
致道博物館  
福島県立博物館  
福島美術館  
我孫子市鳥の博物館  
茨城県歴史館  
土浦市立博物館  
栃木県立博物館  
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

小山市立博物館  
群馬県立近代美術館  
群馬県立歴史博物館  
浦和市郷土博物館  
埼玉県さきたま資料館  
埼玉県立自然史博物館  
埼玉県立博物館  
埼玉県立民俗文化センター  
埼玉県立歴史資料館  
戸田市立郷土博物館  
市立市川考古博物館  
市川自然博物館  
館山市立博物館  
千葉県立郷土博物館  
千葉県立中央博物館  
千葉県立安房博物館  
千葉県立大利根博物館  
千葉県立上総博物館  
千葉県立総南博物館  
千葉県立房総のむら  
千葉県立房総風土記の丘  
千葉市加曽利貝塚博物館  
船橋市郷土資料館  
君津市立久留里城資料館  
港区立郷土資料館  
豊島区立郷土資料館  
日本刀剣博物館  
船の科学館  
足立区立郷土博物館  
大田区立郷土博物館  
家具の博物館  
紙の博物館  
都立美術館  
目黒区守屋教育会館郷土資料室  
サントリー美術館  
品川区立品川歴史館  
渋谷区立松濤美術館  
たばこと塩の博物館  
東京都高尾自然科学館  
八王子市立郷土資料館  
府中市郷土の森  
福生市郷土資料館  
町田市立博物館  
国学院大学文学部考古資料室  
湯浅八郎記念館  
明治大学商品陳列館  
神奈川県立博物館  
神奈川県立自然保護センター  
神奈川県立金沢文庫  
川崎市市民ミュージアム  
シルク博物館  
大涌谷自然科学館  
茅ヶ崎市文化資料館  
根岸競馬記念公苑馬の博物館  
横浜マリタイムミュージアム  
平塚博物館  
横須賀市自然博物館・人文博物館  
長岡市立科学博物館

新潟県美術博物館  
柏崎市立博物館  
相川郷土博物館  
富山県立近代美術館  
富山市郷土博物館  
富山市科学文化センター  
石川県白山自然保護センター  
石川県立歴史博物館  
小松市立博物館  
松任市立博物館  
福井県立博物館  
福井県立若狭歴史民俗資料館  
福井市立郷土自然科学博物館  
福井市立郷土歴史博物館  
山梨県立美術館  
山梨県立考古博物館  
飯田市立博物館  
上田市立博物館  
大町山岳博物館  
信濃町立野尻湖博物館  
長野市立博物館  
松本市立博物館  
日本民俗資料館  
上原仏教美術館  
静岡県立美術館  
静岡市立登呂博物館  
東海大学海洋科学博物館  
東海大学自然史博物館  
沼津市明治資料館  
沼津市歴史民俗資料館  
浜松市立博物館  
富士市立博物館  
上田市立博物館  
藤枝市郷土博物館  
焼津市歴史民俗資料館  
久能山東照宮博物館  
愛知県陶磁資料館  
愛知県文化会館  
熱田神宮宝物館  
徳川美術館  
一宮市博物館  
瀬戸市歴史民俗資料館  
豊橋市自然史博物館  
豊橋市地下資源館  
豊橋市美術博物館  
豊田市郷土資料館  
蒲郡市博物館  
日本モンキーセンター  
名古屋博物館  
名古屋科学館  
名古屋大学総合研究資料館  
南山大学人類学博物館  
半田市立博物館  
博物館明治村  
尾西市歴史民俗資料館  
三好町立歴史民俗資料館  
安城市歴史博物館  
知立市歴史民俗資料館

蟹江町歴史民俗資料館  
武豊町歴史民俗資料館  
碧南マリンドリーム  
リトルワールド  
海の博物館  
桑名市博物館  
神宮徴古館  
真珠博物館  
藤原岳自然科学館  
斎宮歴史博物館  
滋賀県立琵琶湖文化館  
大津市立歴史博物館  
市立長浜城歴史館  
彦根城博物館  
京都市考古資料館  
京都府立総合資料館  
京都文化博物館  
京都丹後郷土資料館  
大阪市立博物館  
大阪市立自然史博物館  
大阪人権資料館  
大阪府立弥生文化博物館  
堺市博物館  
伊丹市博物館  
淀川資料館  
辰馬考古資料館  
柏原市歴史資料館  
鉄斎美術館  
神戸市立博物館  
兵庫県立歴史博物館  
西宮市立郷土資料館  
天理大学附属天理参考館  
奈良県立美術館  
奈良県立民俗博物館  
大和文華館  
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館  
橿原市千塚資料館  
和歌山県立自然博物館  
和歌山市立博物館  
鳥取県立博物館  
足立美術館  
岡山県立博物館  
岡山県立美術館  
岡山市立オリエント美術館  
倉敷市立自然史博物館  
津山郷土博物館  
津山洋学資料館  
新市町立歴史民俗資料館  
日本はきもの博物館  
広島県立歴史博物館  
広島市安佐動物公園  
宮島町立宮島歴史民俗資料館  
秋吉台科学博物館  
徳島県立博物館  
香川県立自然科学館  
愛媛県立博物館  
瀬戸内海歴史民俗資料館  
九州歴史資料館

北九州市立考古博物館  
北九州市立自然史博物館  
北九州市児童文化科学館  
熊本県立美術館  
山鹿市立博物館  
佐賀県立博物館  
長崎県立美術博物館  
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館  
宮崎県総合博物館  
鹿児島県立博物館  
鹿児島県歴史資料センター梁明館  
鹿児島市立美術館  
尚古集成館  
名護博物館  
〔博物館協会〕  
日本博物館協会  
全日本博物館学会  
愛知県博物館協会  
静岡県博物館協会  
富山県博物館協会  
鳥取県博物館協会  
〔役所関係〕  
内閣技術院  
農林水産省東海農政局・名古屋営林局  
愛知県自然保護課  
関市役所  
可児市役所  
土岐市役所  
笠松町役場  
北方町役場  
川島町役場  
高富町役場  
平田町役場  
萩原町役場  
岐阜市文化センター  
各務原市民会館  
大垣市文化会館  
美濃加茂市文化会館  
多治見市文化会館  
川島町ほんの家  
北方町図書館  
〔教育委員会関係〕  
岐阜県教育委員会  
岐阜県教育センター  
岐阜県情報処理センター  
岐阜グリーンテクノセンター  
岐阜県同和教育協議会  
岐阜県教育委員会文化課  
岐阜県小中学校校長会  
岐阜県高等学校校長会  
岐阜教育会  
岐阜県PTA連合会  
岐阜市教員委員会  
各務原市教育委員会  
大垣市教育委員会  
関市教育委員会  
美濃市教育委員会  
美濃加茂市教育委員会

可児市教育委員会  
多治見市教育委員会  
恵那市教育委員会  
中津川市教育委員会  
高山市教育委員会  
巣南町教育委員会  
春日村教育委員会  
神戸町教育委員会  
藤橋村教育委員会  
板取村教育委員会  
白鳥町教育委員会  
御嵩町教育委員会  
明智町教育委員会  
萩原町教育委員会  
古川町教育委員会  
国府町教育委員会  
清見村教育委員会  
宮川村教育委員会  
北海道教育委員会  
神奈川県教育委員会  
相模原市教育委員会  
川崎市教育委員会  
世田谷区教育委員会  
小松市教育委員会  
春日井市教育委員会  
瀬戸市教育委員会  
稲沢市教育委員会  
津市教育委員会  
四日市市教育委員会  
亀山市教育委員会  
滋賀県教育委員会  
豊中市教育委員会  
貝塚市教育委員会  
河内長野市教育委員会  
池田市教育委員会  
枚方市教育委員会  
藤原町教育委員会  
橿原市教育委員会  
松山市教育委員会  
〔学校関係〕  
岐山高等学校  
岐阜第一女子高等学校  
羽島高等学校  
大垣女子高等学校  
不破高等学校  
加茂高等学校  
郡上高等学校  
関商工高等学校  
大垣日本大学高等学校  
岐阜県高等学校教育研究会生物部会  
岐阜県高等学校教育研究会地学部会  
岐阜県高等学校理科助手研究会  
岐阜大学教育学部  
岐阜薬科大学図書館  
岐阜女子短期大学  
岐阜経済大学図書館  
東海女子大学  
東海女子短期大学

聖徳学園短期大学  
中部女子短期大学  
東北福祉大学  
図書館情報大学  
お茶の水女子大学学芸員課程  
東京大学地震研究所  
多摩美術大学  
東洋大学教養課程  
神奈川大学日本常民文化研究所  
立教大学  
明治薬科大学  
川村学園女子大学  
国学院大学博物館学研究室  
東海大学出版会  
日本大学文理学部応用地学教室  
明治大学学芸員課程  
金沢大学理学部  
金沢美術工芸大学図書館  
静岡大学理学部地球科学教室  
愛知大学図書館  
中京短期大学  
名古屋経済大学  
名古屋女子大学家政学科  
市邨学園短期大学人文科学研究室  
名古屋大学文学部美術史研究室  
同志社大学博物館学芸員課程  
仏教大学図書館  
関西大学考古学等資料室  
大阪大学文学部国史研究室  
島根大学図書館  
九州産業大学芸術学会  
〔研究機関、出版社、その他〕  
東京国立文化財研究所  
奈良国立文化財研究所一飛鳥資料館  
農林水産省農林水産技術会議事務局  
宮内庁書陵部  
宮内庁正倉院事務局  
国立教育会館社会教育研究所  
文化庁  
北網圏北見文化センター  
秋田県埋蔵文化財センター  
いわき市教育文化事業団  
地質調査所  
東京埋蔵文化財センター  
府中病院内遺跡調査会  
石畑狭山嶺遺跡調査会  
日本製鋼所遺跡調査会  
武蔵国分寺関連遺跡調査会  
駒沢学園校地内遺跡調査会  
葛飾区遺跡調査会  
日野市栄町遺跡調査会  
東北新幹線赤羽地区遺跡調査会  
玉川文化財研究所  
千葉文化財センター  
神奈川県自然保全研究会  
神奈川県埋蔵文化財センター  
山梨文化財研究所  
静岡県埋蔵文化財調査研究所

浜松市埋蔵文化財調査事務所  
東レ科学振興財団  
日本芸術文化振興会  
行動美術協会  
民具製作技術保存会  
平岡環境科学研究所  
活断層研究会  
東京貝塚同好会  
日本イヌワシ研究会  
三重動物学会  
三重自然誌の会  
日本カモシカセンター  
観光資料保護財団  
名古屋植物防疫所  
愛知県埋蔵文化財センター  
岡崎市史編纂事務局  
黒川古文化研究所  
国画会  
日展  
備前刀学会  
日本美術刀剣保存会  
京都府立ゼミナールハウス  
国際日本文化研究センター  
尼崎私立文化財収蔵庫  
元興寺文化財研究所  
福岡市埋蔵文化財センター  
ポーラ文化研究所  
ポーラ伝統文化振興財団  
岐阜県立報課  
岐阜県総務課  
岐阜県統計課  
岐阜県自然保護課  
岐阜県林政課  
岐阜県公害研究所  
岐阜県工業技術センター  
岐阜県工芸試験場  
岐阜県水産試験場  
岐阜県メモリアルセンター  
岐阜県国際交流センター  
岐阜県地域活性化センター  
岐阜県地方競馬組合  
岐阜県御嶽少年自然の家  
岐阜県伊自良青少年の家  
岐阜県関ヶ原青少年自然の家  
岐阜市少年自然の家  
各務原市少年自然の家  
岐阜県郷土資料研究会  
岐阜県進路研究会  
岐阜県昆虫同好会  
岐阜県歴史資料保存会  
国民融合をめざす部落問題全国会議  
岐阜民主同和促進協議会  
日本野鳥の会岐阜県支部  
岐阜県哺乳動物調査研究会  
岐阜県文化財保護協会  
養老町文化財保護協会  
中山道加納宿保存会  
揖斐谷の自然と歴史と文化を語る集い

郡上史談会  
南長森郷土史会  
地域社会研究会  
東海地理研究会  
美濃民俗文化の会  
飛騨郷土学会  
岐阜コンベンション・ビューロー  
サンメッセ  
書道心画院  
霊山顕彰会  
日本生命財団  
日本の竹を守る会岐阜支部  
欧亜美術  
日本東アジア文化財交流会  
美術文化史研究会  
三井文庫  
岐阜新聞社・岐阜包装  
東海民報  
北飛ニュース  
岐阜中央郵便局  
日本視聴覚教材センター  
月刊西美濃わが街社  
北白川書房  
TAPタウン情報ぎふ  
大衆書房  
誠文堂新光社  
東京書籍  
岩波書店  
啓林館  
山川出版社  
東京美術  
文一総合出版  
日本美術刀剣新聞社  
ほっちぼっ出版部  
びあ株式会社  
海外学人日刊社  
今日郵便月刊社  
中華民国僑務委員会  
光華畫報雜誌社  
〔個人〕  
伊藤 幸吉  
大野 正男  
金子 弘之  
川瀬 仙吉  
佐藤 正孝  
座馬 井邨  
杉山 勇  
高木 富蔵  
辻 太  
富田 靖男  
野村 倉一  
古川 のぶ  
馬場 喜裕  
孫崎 延代  
宮崎 惇  
宮野 節子  
吉岡 勲

## 〔利用状況〕

### 1. 入館者数

今年度は、入館者総数71,176人、前年に比べ約27%の増加で、特別展「濃飛の仏像」の影響が大きかった。

また、開館日数は305日であり、1日平均の入館者数は233人であった。

月別の入館者数は右表のとおりである。1日の入館者が最も多い日は11月18日で1,624人を数えた。

団体入館者数をみると、221団体18,751人で入館者総数の約26%にのぼり、月別では10月が最も多く、団体入館者総数の約34%を占めている。

これを県内、県外別にみると、県内が132団体11,156人で全体の約59%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く、68団体7,105人で全体の約38%を占めている。

特別展期間中の中の入館者数は右表のとおりであり、入館者数49,036人、1日平均383人であった。これは入館者総数の約69%にあたり、特別展への関心の高さがうかがえる。

月	小中生 人	高大生 人	一般 人	計 人	開館日数 日	一日平均 人
4	2,619	936	2,840	6,395	26	246
5	2,960	1,815	5,192	9,967	26	383
6	605	352	2,637	3,594	26	138
7	837	378	2,084	3,299	26	127
8	1,586	369	3,750	5,705	27	211
9	1,027	594	2,531	4,152	26	160
10	5,562	1,299	6,227	13,088	26	503
11	3,503	779	10,400	14,682	26	565
12	329	50	1,291	1,670	22	76
1	404	58	1,834	2,296	23	100
2	465	52	1,520	2,037	24	85
3	1,070	384	2,837	4,291	27	159
計	20,967	7,066	43,143	71,176	305	233

特別展名	期間	小中生 (人)	高大生 (人)	一般 (人)	計 (人)
輪中と治水	4.25～6.17	5,146	2,498	8,412	16,056
白山の自然	7.11～9.9	2,639	1,238	6,677	10,554
濃飛の仏像	10.17～11.18	6,228	1,656	14,542	22,426
合計		14,013	5,392	29,631	49,036

### 2. 施設利用者

今年度の講堂及び研修室の利用者は次のとおりであった。

- 2. 5. 26 岐阜県哺乳動物調査研究会
- 2. 6. 2 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部
- 2. 6. 28 美濃市小学校理科研究会
- 2. 8. 17 岐阜県中学校理科研究部会
- 2. 8. 20 岐阜県小中学校教育研究会岐阜県支部進路指導部会
- 2. 9. 4 岐阜県高等学校長協会常任理事会
- 2. 10. 23 岐阜市中教頭会
- 2. 10. 27 俳句会（岐阜県ホトトギス会）
- 2. 11. 10 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部
- 2. 11. 16 学校教育課長会
- 3. 2. 13 東海聳教育研究会「理科」研究会

## 〔博物館関係団体〕

### 1. 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。公開講座（年4回）、機関紙（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うよう努力した。

平成2年3月現在、会員館園は106、個人会員は21名、名誉会長以下主な役員は次のとおり。名誉会長一梶原拓、会長一蒔田浩、副会長一平田吉郎・青木允夫・伊藤秀幸、理事長一松本五三、事務局は岐阜県博物館内にある。

### 2. 岐阜県博物館友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を深めること」をめざして発足した友の会は8年目を迎えた。平成2年度は会員も着実に増え、ようやく、次のステップへの土台が整ったといえよう。

まず会員数は507名、初めて500名の大台に達した。前年度より101名の大幅増加をみた。年齢構成は50・60歳代が半数以上を占め、実年世代の強い学習意欲がうかがえる。生涯学習の一端としての友の会の使命を改めて感じる。

主催事業のうち、探訪の旅は日帰り4回（うち1回は斎宮博物館アンコール）、1泊2日1回の計5回、他館見学1回を実施した。今後もペースを崩さず、内容の充実に努めたい。初めて実施した文化講演会は、岐阜ゆかりの作家・山田智彦氏を講師に迎え、県博物館講堂にほぼ満席の聴講があり、成功を収めることができた。

このように、かなりの経費を必要とする事業が日の目をみたのは、一般会員の協力はもとより、後援会員のお力添え、資料等の作成頒布が順調に推移し、ある程度の財政基盤が確立されたため、とみてよからう。

今後の課題としては、財政基盤のいっそうの充実に努めるとともに、会員増加に伴って研修の旅などの内容の改革、また会員増加に伴う事務量の増加に対応するためボランティア活動の積極的な推進が必要と思われる。

### ▼県博物館講堂をほぼ満席にした文化講演会



### ◎平成2年度友の会の事業

#### ＜会議＞

総会 4.23 役員会 4.14 10.10

#### ＜研修の旅、他館見学、文化講演会＞

- ・歴史探訪（斎宮博物館ほか）5.20 47名参加
- ・同（同）6.10 43名参加
- ・同（高橋家住宅ほか）7.8 51名参加
- ・同（奈良、大阪）10.21～22 92名参加
- ・同（三州足助屋敷）3.17 44名参加
- ・他館見学（杉本美術館ほか）9.15 43名参加
- ・文化講演会（講師・山田智彦氏）11.3 186名参加

#### ＜友の会報発行＞

- ・第23号 4.1 500部 B5 6頁
- ・第24号 7.1 500部 B5 6頁
- ・第25号 10.1 500部 B5 6頁
- ・第26号 1.1 600部 B5 6頁

#### ＜資料等の作成頒布＞

- ・特別展図録「輪中と治水」 3,500部
- 「白山の自然」初版 700部
- 「岐阜県の仏像」初版 3,400部
- 「飛騨の匠」3版2刷 1,500部

- ・「展示案内こをじっくり」等の頒布
- ・「岐阜県の博物館」ほか委託図書等

#### ＜その他＞

- ・親子教室等共催事業 10回
- ・会員助成（入館料補助）
- ・県博物館へ図書寄贈

### ◎平成2年度友の会役員

会長 熊田光久  
副会長 長屋一男 国光溢夫 廣田照夫  
伊藤秀幸

### ◎平成2年度予算

一般会計2,050,281円 特別会計3,006,140円

## Ⅳ 利用案内

- ・開館時間 4月1日▶10月31日 9時▶16時30分  
11月1日▶3月31日 9時30分▶16時30分  
(入館は16時まで)

- ・入館料 ( )内は特別展開催中の入館料

区 分	個 人	団体(20人以上)
一 般	200円(400円)	150円(300円)
高校・大学生	100円(200円)	50円(100円)
小・中学生	50円(100円)	30円( 60円)

※団体で利用していただく場合には、下見においでください。  
解説資料・利用案内等をさしあげ、館内をご案内します。

- ・休館日 月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)  
年末年始(12月27日▶翌年1月4日)
- ・駐車場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場をご利用ください。  
駐車料金……普通(軽)自動車 300円、バス 800円
- ・交 通 名鉄美濃町線 小屋名下車 徒歩約15分  
岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分  
自家用車ご利用の場合は百年公園北口からお入りください。

